

# 2022 年秋学期/アベリストウィス大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで記載されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

## 1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

授業形態は1つの大きなクラスを2つに分けて授業は進められました。教科書は授業の第一回時に配布されましたが、ほとんど教科書は使用せずに終わりました。町に行き、現地の人たちと英語でコミュニケーションを取ったり、4人1グループに形成され、合同プレゼンを行うことがメインでした。各チャプターごとに理解度を図るために小テストが行われました。とても難しい時もあったり、比較的解きやすい時もあったりと難易度はまばらでした。

科目名は大きく三つに分かれていて、Reading and Writing, Listening and Speaking, Language Culture and Communication。 Reading and Writing と Listening and Speaking はそれぞれの教科書に沿って進められた。4つのユニットを終わらせた。Language Culture and Communication ではアベリストウィスのダウンタウンの散策でインタビューしたりプレゼンをしたりした。フォーマルなメールの書き方を学んだり、読書をする時間など相対的にみると幅広いことをする科目だった。

現地の留学生向けファンデーションコースに交じて授業をした。

他の授業は良かったが、Language, culture and communication クラスの先生の授業効率が悪く、毎回授業が延長されていて、内容も22歳が受けるようなものではなく小学生のような内容だったのでストレスでした。他の授業は教科書に沿って進められており、毎日の課題をこなし成長できていたと思う。

主に文法、会話、文化理解の3つの授業がありました。テキストはIELTS 対応のもので、レベルは中級です。文化理解の授業では街を散策し、現地の方にインタビューしまとめて発表するという内容が多かったです。

リスニング・スピーキングとリーディング・ライティングの授業は教科書に沿って授業が進められた。コミュニケーションの授業は毎回内容が違った。

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

クラス人数は自分も含めて15人でした。大半が日本人と韓国人でした。日本人が8人、韓国人が6人、エジプト人が1人、ギリシャ人が1人でした。

クラスは17人。日本人8人(外大生7人、学部進学生1人)、韓国人7人、ギリシャ人1人、エジプト人1人。

クラスにはエジプト人、ギリシャ人各1人、韓国人7人、現地の日本人学部生が1人いた。

人数: 17人 (日本人8人、韓国人7人、エジプト人1人、ギリシャ人1人)

全体では17人。日本人8人(内外大生7人)、韓国人7人、エジプト人1人、ギリシャ人1人。全授業のうちの、Listening and speaking と reading and writing は2クラスに分かれていた。年齢が他の学生と離れており、クラスメイトというより、妹と弟が沢山できたような感覚だった。

クラスは全員で17人。日本人8人、韓国人7人、エジプト人1人、ギリシャ人1人です。

2クラスに分けられ、合同の授業と別々の授業があった。Aクラスは日本人4人韓国人3人エジプト人1人で、Bクラスは日本人4人韓国人4人ギリシャ人1人だった。

クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

日本の授業と違う点はフィールドワークがとて多かったことです。1限90分の授業でしたが、90分ずっと座学の日の方が珍しかったように私は感じています。また、先生たちも含め、ほかの国籍の人たちは良い意味でも悪い意味でも適当な部分があると感じました。期限がある課題を期限内に提出しているのはほぼ日本人だけでした。

よくグループワークがあり、先生が与えた質問について話し合う時間が多く取られた。授業内でグループごとに意見を発表した。個人で考えるよりは、ペアやそれ以上で一緒に問題を解くことが多かった。特に日本の授業と違うと感じた点はなかったが、一つあげるとするならば、関西外大で受講するような先生からの一方的な講義はなく、生徒も積極的に参加していると感じられるような授業の仕方だった。

日本の授業よりも発言が求められます。

日本人と韓国人は基本似ていて、日本との雰囲気の違いはあまり感じなかったが、一人のエジプト人が多くの発言をし周りを引っ張り良い雰囲気を作るきっかけになっていた。

クラスが2つのグループに振り分けられていました。2つのグループで授業の進捗度にかなり偏りがありました、生徒の積極性なども考慮されていれば進捗度の差が軽減されていたと感じました。

基本的にペア活動かグループでの活動で、答えを合わせてから全体で答えを聞かれた。日本人と韓国人が多かったせいかわからないが、教室は静かで、先生が指名して答えることも多かった。

### 授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。

印象に残っているトピックはやはりフィールドワークです。現地の人たちとコミュニケーションを取れたことも、アジア人だと見た目インタビューを承諾してくれなかったなど、よい経験も悪い経験もこのフィールドワークを通して身をもってできたと思います。

週ごとに大きくトピックが決まっており、大体 12 個のトピックを扱ったが、その中でも British Stereotype はとても興味深かった。イギリス人の慣習やあるあるについて学んだ。歴史が関連していることもしていないことも学べて、実際にイギリスに来ないと学べないと感じることができる内容だった。

環境や国内の取り組みについて

rewilding とストライキについて。これらは日本にあまり浸透していない活動で、文化や国民の性格の違いをわかりやすく感じる事ができた。

印象に残っているものとして、アイスブレイクで使われたものですが、グループに分かれて自分たちが気球に乗っていると、気球から下ろす 3 人の偉人を選ぶと言うものでした。中には、毛沢東や中国の偉人がいました。クラスには中国の方はいませんでしたが、もし自国の偉人がその中にいたらグループで物議を醸す内容のアイスブレイクだと思い驚きました。

ジェンダーやフェミニズムなどの勉強は印象に残っています。

### 授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

工夫していたことは、わからない単語が授業中に出てきたときにはすぐにスマホや電子辞書で調べるのではなく、どのような意味か推測するようにしていました。すぐに検索すると、意味はすぐに分かるので授業にはついていきやすいですが、頭には残りにくいと授業を受けてながら思ったからです。

いかなる状況でも自分の意見を伝えるということを忘れないようにしようと心掛けていた。授業内では挙手制でなくても挙手して先生に当ててもらうことによって自分の意見を発表しやすい環境を作ることが出来た。意見を共有する場面で他国の留学生の勢いに負けてしまうので、その点の打開策として工夫して考えて実行していた。

課題は当たり前で、外国人に負けないように積極的に発言していく。

わからない単語はすぐに調べる。調べられない状況の場合は、メモをして必ずその日のうちに解決する。授業で躊躇わずに多くの発言をする。発言をすることで、わからなくても授業を自分のペースに持っていくことができる上、発言しないより集中できるので一回の授業で理解することができる。

分からなければ、分かるフリをせずに質問するということを心掛けて取り組みました。課題が多いので、昼休みや休み時間を利用して取り組み、なるべく放課後は課題よりも復習の時間を確保することを意識していました。

宿題や課題は忘れずに取り組み、自分から発言することを努力しました。

## 2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

通学手段	通学時間	主に食事はどこでとっていましたか。
徒歩	0~15分	自炊

部屋に用意してあったものは何ですか。	自分で用意したものは何ですか。
勉強机、ベッド、洗面所、無料の SIM カード、ヒーター、枕、布団、タオルが2枚、卓上ランプ	歯ブラシ等の日用品、食料、スリッパ、ハンガー、食器類、調理器具
ベッド(デュベットなし)、ウェルカムグッズ(お菓子、インスタントヌードル、チラシ)	日用品、食料品
布団一式	ハンガー
机、ベッド、布団一式、ライト	日用品一式、食器
カップヌードル一つ、勉強机のライト	フライパン、皿、トイレトペーパー、洗剤など日常生活に必要なもの全て
机、棚、クローゼット(グローバルコモンズ結と同じくらいの大きさ)、ベット、洗面台がありました。	リネンセットを事前に購入していました。
リネンセットが用意されているはずだったが、なかったのが、到着後電話などをして用意してもらった。	基本的に全て。

#### 大学寮生活をする上で、日本と違って戸惑ったこと、驚いたこと。

関西国際空港でほぼ初めて会った大学の同級生や上級生と共同生活することが大変だった。彼女たちがどんな人なのか、自分がどんな人なのかをお互いに全く知らない状態で異国の地で一緒に生活したので大変だったが、それも一つの経験だと思う。

生活面では、外大生だけのフラットシェアだったので日本との違いを体感することはなかった。しかし、韓国人の友人のフラットに遊びに行ったときに見たシェアキッチンが汚すぎて驚いた。キッチンなどを掃除してきれいに保つのは日本人くらいだと聞いて、日本人のきれい好きは本当なんだと感じた。

何もかもいい加減なこと

蛇口が cold/hot 用に二つずつあること

トースターが入居してすぐに壊れた。キッチンのヒーターが壊れていた。夜になったら、部屋のヒーターが切れる。私のフラットは奇跡的に女性のみだったが、他のフラットは男女共同で問題が起こっていた。

イギリスに行きましたが、寮のお湯のパイプが突然使えなくなりシャワーに入れないということが度々起こりました。起こるたびに、セキュリティーに電話をして来て直してもらっていました。まず初めに、寮が男女一緒ということに驚きました。私がいたフラットはたまたま全員外大生でしたが、クラスの子たちはみんな男の子とシャワーやトイレ、キッチンを共有していると聞きとても驚きました。

物価が高いこと。

#### 大学寮生活を快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。

日本人と同じフラットで、仲良くなったとしてもお互いに頼ることはとても大切なことだが、頼りすぎるのは絶対にしない方がいいと思います。ほぼ一日中一緒にいるとしても周りに迷惑をかけないように、かけていないつもりでも相手は迷惑だと思っていることがあるので、細かい部分にまで気を配るべきです。はじめはそれができていても、仲良くなるにつれて気が緩んでしまうかもしれないので帰国するまで気を引き締めて生活することがいいと思います。

一緒に来た外大生に干渉しすぎないこと。揉め事や上下関係がどうしてもあって、部活の合宿に来ているみたいだったのが、せっかくイギリスに来たのに一番残念だったことだ。多国籍の人と共同生活する時のシチュエーションしか考えていなかったのが、日本人だけの共同生活になるかもしれないという覚悟をも考えたうえで留学に来たら、ここまで思い詰めて生活することはなかったのかなと思う。

外国人と一緒に住む場合は遠慮なく意見を出した方がいいと思う。

人に干渉しすぎない。

まず同じフラットメイトとコミュニケーションを取り、要望や改善点があれば言える環境作りをすることです。

しっかり掃除の分担や quiet hours を決めること。

パソコンは持参 しましたか	携帯電話	インターネットは部屋から 接続可能でしたか。	その際に費用は かかりましたか。
はい(6人)	日本からSIMカードを持参(5人)	ワイヤレスで可能	いいえ
いいえ(1人)	留学先でSIMカードを購入(2人)		

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア/サークルなど。	学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など
大学主催の多国籍の人たちと交流できるイベントに数回行きました。サークルは入りたかったけれど、課題や授業が忙しく、結局一度も参加できませんでした。私は行きませんでした。ハロウィンパーティーなども大学主催で行われていました。	大学近辺には全く何もないので町まで歩いて20～30分歩いてカフェやレストランに行って外国人の友達と話したりして過ごしました。
渡英すぐにあった国際交流のパーティーに参加した。そこでは大学の留学生と知り合うことが出来た。授業では学部生と関わることはなかった。思い返すととても良い機会だった。サークルにも参加したかったが、課題の量がとても多かったので惜しくも参加することはできなかった。	大学からダウンタウンまで山道、徒歩で30分がかかったので課題が多かったこともあり、週1の頻度でしか出かけることが出来なかった。主にスーパーマーケットをハシゴした。授業が終わって帰国までの間にパブやアパリストウィスにしかないお店などに行くことが出来た。
課題が多すぎて、サークルに入れなかった。	地元の個人営業のカフェ
internationalの学生のためのイベント	テスコ
大学主催のフレッシュマンパーティーやハロウィンパーティーに参加した。	大学内では、課題をしたり友達とご飯を一緒に作ったりしていました。
大学主催のハロウィンパーティーやビンゴパーティーに参加しました。	タウンにはカフェやレストランがあったので、たまに留学生の友達と食べに行った。
大学主催のパーティーがたくさん開催されていたので、参加した。サークルに参加する暇はなかった。	

### 3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備
留学前に取り組んだこととして、その町の治安や立地などを入念に調べました。
知っている口語表現を増やすことに徹した。留学経験のある友達曰く、習ってきたような文法で話されなければ理解できないと聞いたので、文法や単語を勉強しつつも教科書に載っていないような口語表現を覚えることに努めた。そのために洋楽を聞いたり洋画を観たりした。
TOEFLの勉強と洋画を見てリスニング力を上げた。
留学前に準備したことは、英語の学習です。コミュニケーションが取れるだけでなく、論理的な会話ができるくらいまで英語の準備をして留学に臨みました。
TOEFLとTOEIC

留学前にしておけばよかったと思う準備
日本には当たり前前に売られているけれどイギリスではめったに売られていない商品があったのでそれらをあらかじめ調べていた方が必ずより快適な生活を送られると思います。

留学先についての知識だけでなく、幅広い国についてもっと学んでおけばよかった。他の留学生との会話の内容が増えるし、もっと食欲に日本以外について学んでおくことで日本の良さや特徴がより見えたと思う。

ハンガー、リスニング

日本の調味料を用意しておけばよかったと思いました。イギリスは調味料自体種類が少なく、料理の幅も狭くなると感じたので調味料があればいいなと感じました。

特になし。

#### 日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの

個人的に洗顔石鹸は持って行って良かったと思います。イギリスではメイクなどは落とすものの、洗顔フォームを使って洗顔する習慣があまりないらしく、大きなショッピングモールかオンラインショップでないと売られていなかったです。

カルピスの原液。ジュースの味が合わなかったことが多かったので、持ってきて本当に良かった。炭酸水は豊富だったので日本で飲むよりも楽しんで飲むことが出来た。

昆布つゆ、服

酔い止め薬

日本のお菓子、駄菓子

日本のお菓子

日本のお菓子と調味料

#### 日本から持っていく必要のなかったもの

3か月分の化粧品を持っていきましたが、現地の人たちはノーメイクまたはとても薄い化粧だったので、だんだん自分もそちらに慣れていき、すぐに化粧品類をほとんど使わなくなりました。そのため、使い切るかもと予備を少し持っていきましたが一つも開封せずに持って帰ってきたので必要なかったかなと感じています。

カトラリー類。外大生とキッチンシェアすることになったので、カトラリーを始めお皿やお鍋などもみんなでお金を出し合って買おうという話になった。結果、必要なかった。

シャンプー、醤油

醤油

マスク

#### 日本から持参すればよかったと思ったもの

洗濯物干しの小さなハンガーがあればとても便利だと思います。

自炊する予定はなかったが、結局自炊することになったので調味料が全然なかったし、あったとしても高かったのがショックだった。せめて醤油だけでも持って行っていたら自炊が楽だったし料理の幅も増えたのにと感じる。

スリッパ

暖かいダウン

調味料

味噌

#### 4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。	日本円でいくらぐらい準備しましたか。
現金を3万円程度を両替して持っていきました。クレジットカードが使えないお店は大学の近くの町にあるアジア料理屋さん以外すべて使えたので、ほとんどをクレジットカードを使用していました。	現金は現地で少し両替をしたので最終的な合計は5万円程度、クレジットカードは上限30万円でした。
クレジットカード、現金	クレジットカード(留学中に上限10万円から上限30万円に変更)、現金5万円相当
クレジットカードは何枚か必要です。限度額にすぐ行きます。	日本円で3万ぐらい現金で用意しました
デビットカード、現金	現金10万円
クレジットカードと現金を持って行ったが、ほとんどクレジットカードを使用し、友人と割り勘するときに現金を使用した。	クレジットカード上限100万円、現金20万円
現金は必要最低限で、あとはクレジットカードとデビットカードで過ごしていました	現金8万円、クレジットカード上限30万、デビットカードは都度5万入金
クレジットカード2枚と8万円の現金	クレジットカード上限20万を2枚と日本で換金した現金8万円の

#### 現地で支払った住居費と食費を教えてください。

現地で支払った住居費は保証金として100£支払いました。食費は4人で分担していたので細かくはわかりませんが、一人多い時で月13000円程度で抑えられていたと思います。
寮のデポジットで£100、食費は月1万円
食費は自炊だったので月2、3万。住居費はプログラム込みだったので不明
食費月10000円くらい
現地は寮のデポジットで100£支払いました。食費は月50£いかなくらいだと思います。
食費は日本の3倍。住居費はプログラム費に込みでした。

#### 旅行(大学主催以外)をした場合の期間、費用、行先、手配方法など

期間は2、3日で行ったり、テスト後の短期間休暇では1週間ほどの旅行をしました。基本的にバスで行きました。学生だと学割が効くアプリがあったのでそれを使って予約をしていきました。費用はホテルだと、どこも高く、安く取れても50~60£はかかりました。食費等も、円安に加えてイギリスでは物価が高くなっていたので、できるだけ安く済ませられるようにたくさん調べたりしていました。
小旅行も合わせて4つほど行くことが出来た。テスト終わりの休日や土日を有効活用して旅行することができた。カーディフ、マンチェスターとリバプールとバーミンガム、オックスフォードとハートフィールド、ロンドン。ホテルや色々なチケット、交通手段も自分で調べて個人的に取った。交通手段は電車、バスを利用した。イギリスの大学生なら割引が使えたりしたのでその点は安く済んだ。先生にアドバイスももらいながら旅行のプランを決めた。
イギリスに留学したのでフランス、オランダに行った。色々旅行して20万ぐらいはかかったかも。ブッキングドットコムが便利だった。
授業がない土日の間にマンチェスターやバーミンガムに行った。交通手段はバスか電車で、ネットでチケットを予約した。留学大学の地域にはショッピングセンターがないので、バスで4時間かけると服などを買うことができた。
週末や大学がストライキのため休講の際に、旅行に行きました。2泊3日や1泊2日など短期間で数回行きました。
パリ旅行とロンドン旅行(テスト後の長期休みを利用)マンチェスターとバーミンガム旅行(土日を利用)

### その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。

個人的費用ではお土産や食費よりも、バスや電車などの交通費とホテル代に多くかかったと感じています。

4回の旅行全額50万円でおさまっているはずだ。渡英している期間は特に円安でレートがとて高かったのも大きく影響している。

2,30万

パリ 8万くらい

合計で50万円ほどです

わかりません。

## 5. 学習面について

### 語学力・コミュニケーション能力の自己分析

留学前は自分の英語は正しいかなど、発言することに対してとても消極的でした、しかし、留学先で様々な人たちと関わっていく過程で、自分の英語の文法が正しいか正しくないかよりも何を考えているかを相手に伝えることの方がとても大事だとわかりました。そのため、文法や発音が無茶苦茶でも相手に伝えようとする前向きな姿勢を身に着けることができましたと思います。

日本で英語を学んでいた時は、日本語で開講される授業と並行に英語の授業も受講していたので英語を学ぶときは英語を学ぶスイッチみたいなものを入れていたが、英語を常に使って授業や課題をしていたので、英語を勉強するという意識は良い意味でなくなっていった。

リスニング力は格段に上がった

語学力・コミュニケーション能力は格段に上昇した。特にリスニング力が上がった。初めは授業で先生の言っていることが聞き取れないことが多かったが、最後には簡単に聞き取ることができ、英語の世界で生きることの大切さを知った。寮でトラブルが起こった時や、クラスで話し合う時など自ら動かないとなにも進まず解決しないので、コミュニケーション能力も上がったと思う。しかし、まだまだ英語で、自分が体験した状況を説明することが難しくうまく伝えられなかった。

文法はだいぶ基礎が固まったと感じましたがまだまだ勉強が必要であると感じました、会話に関しては自分の言いたいことがだいぶ言えるようになりました。英語が思いつかなくても違う言い回しで伝えることができるようになりました。

英語でのコミュニケーションに抵抗がなくなった。積極性を高めることができた。

### 留学前の目標とその達成度

留学前の目標はTOEFL〇点などの数値的な目標だけだったので達成できたかどうかはまだわかりませんが、英語を使ってコミュニケーションを取ろうとする姿勢、英語での発言力、そして生活の中でのリスニング力が前より向上できたと思います。

リーディングやリスニングの時に英語を読んだり聞いたりするというスイッチを毎回入れるという癖を捨てるのが目標だったが、見事達成したと思う。例えばリーディングで英語の量を見て恐れることもあったけど、今はもう怖いものなしなのでそういう面でも鍛えられたと思う。英語が自分にとってより身近なものになった。

積極的に話すことを目標にしていた。

目標は友人を沢山作ることで、達成することができた。アジア人であることもあり、パーティーに参加してもなかなか馴染めなかったが、諦めずに沢山の大学が提供したパーティーに参加し、生徒に声をかけ徐々に友人の輪が広がっていった。現在もインスタグラムなどで会話を続けられている。

テストはまだ受けていないのでわかりませんが、会話に関しては80%ほど目標を達成できたと感じました。

英語学習の集大成を飾ることができた。達成度は80%

### 留学を通しての成長ポイント

相手に自分の意思を伝えること、推測力、コミュニケーション能力、リスニング力が上がったと思います。

迷ったらとりあえず人に聞いてみるという勇気が付いた。店の店員さんにインタビューするというアクティビティなどのおかげで普段から街ゆく人にイベントの場所を聞いたり、旅行の際もホテルマンの人にわからないことを聞いたり、日本にいるときよりもよく人とコミュニケーションを取った。

度胸

これからどんなトラブルが起こっても落ち着いて対応できる力がついた。公共交通機関では、日本の当たり前は通じることがなく、約束の場所にバスが来なかったり、突然予定にない乗り換えをさせられたり、予約した電車が当日にキャンセルされるなど様々な問題を乗り越えることができた。日本にいるとこのような経験はできなかったので心に大きな余裕を持って生きる方法を学ぶことができた。

ディベートの際に、臆することなく自分の意見を論理的に言えるようになったと感じます。

英語力、忍耐力

### 留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

最もモチベーションが高いと感じるのは留学後です。留学前はモチベーションはあっても何をしたらいいのかわからなかったです。留学中は課題や自炊などの生活で手いっぱいモチベーションを感じる暇もありませんでした。留学後は現地で仲良くなったアメリカ人の友達等ができたおかげで今でも英語を使う機会があるのに加えて、もっと彼女たちとスムーズに会話したいなど様々な理由でモチベーションが高いです。

留学前は英語に対して学校で学ぶ教科のひとつという意識が強かった。留学に行ったことによって、今まで学んできた英語が実際にコミュニケーションのツールとして使われているということを初めて体感した。そこで自分が英語を学ぶ本当のモチベーションというものに気づけた。

上がった

留学前はテスト前しか英語の勉強をしてこなかったが、友人が沢山できた現在、その友人たちともっと流暢に会話をしたいと思うようになったので、毎日英語に触れている。そして留学前より英語がわかるようになったので今までより英語に触れるハードルが低くなった。

耳が慣れてきて、先生への返事が早くなっていることに自分で気付いた時は嬉しくてモチベーションが上がりました。

留学中は英語で喋らなければいけない環境と、課題が出されるため、語学学習は習慣になっていた。留学後は TOEFL の為の勉強を努力して取り組んでいる

### 留学中 100%力を振り絞った瞬間

一人旅を行った時です。バスの予約もすべて一人で行いました。また、帰りのバスが時間通りに来ず、日も落ちてとても不安でしたが様々な人たちに尋ねて無事にその日のうちに帰宅することができました。あの時は自分の英語力が最も発揮された瞬間だと思います。

課題の量が多かったこともあり、自分での学習はいつも力を入れて頑張っていたが、特に中間テストと期末テストの科目であったプレゼンテーションは自分ができる最大限の努力をした。10 分間の PowerPoint ありのプレゼンテーションで、自分で題材を決められる分スクリプトを見てはいけなかった。外大でプレゼンテーションをしたことはあったけど、スクリプトを見てはいけなかったり長尺のプレゼンテーションは初めてだったのでとても緊張したし、自分ができると思っていなかった。スクリプトを作らずに 10 分間話し続けたが、自分が英語を 10 分間話し続けられるだけの英語力があるということがわかって嬉しかった。

現地の人との会話

初めてのフレッシュマンパーティーで誰とも話す人がおらず、うろろしていた時に一人の学生に勇気を振り絞って声をかけたこと。それがきっかけで週に一回は遊ぶほどの中になった。

留学生と意見が衝突した時に、英語力のせいだと黙っているということにならず、言いたいことをはっきりいい相手の意見を 100%理解できた時は、留学前に準備したことが発揮されたと感じました。

授業を積極的に取り組みました。

### 留学先大学の良かった点

映画が無料で放映されるイベントがあったりとイベントごとがとても盛沢山だったところ。



自然が豊かだったところ。山に近く、山を下りるとダウンタウンがあり、少し歩くと海があり、丘もある。田舎過ぎない田舎で住みやすかった。

田舎でのどかだった

週に一回チューターと会話する機会があった。

よかった点は、田舎だったので、静かで自然があり野生の動物がいてよかったです。

留学先大学のサポートが手厚かったこと。毎週チュートリアルがあり、問題や学んだことなどチューターと話す機会が多かった。